

表 3. DTVP-A 検査結果(指数)

症 例	全般的視覚統合 (GVPI)	運動の関与が少な い視知覚(MRPI)	視覚—運動の 統合(VMII)
1	79	85	76
2	89	100	79
3	89	89	89
4	80	94	70
5	69	79	64
6	98	113	83
7	82	91	74
平 均	83.7	93.0	76.4
S D	8.58	10.21	7.65

表 4. DTVP-A 検査結果(下位検査標準得点)

症例	MRPI			VMII		
	2. 図形と素地	4. 視覚閉鎖	6. 形の恒常性	1. 模写	3. 視覚—運動探索	5. 視覚—運動速度
1	7	8	8	6	6	7
2	10	9	11	6	5	9
3	8	11	6	8	6	11
4	6	9	12	8	1	7
5	6	10	4	7	1	5
6	13	11	12	13	1	8
7	5	10	11	6	4	8
平均	7.9	9.7	9.1	7.7	3.4	7.9
S D	2.59	1.03	2.95	2.31	2.19	1.73

図1. 「図形と素地」

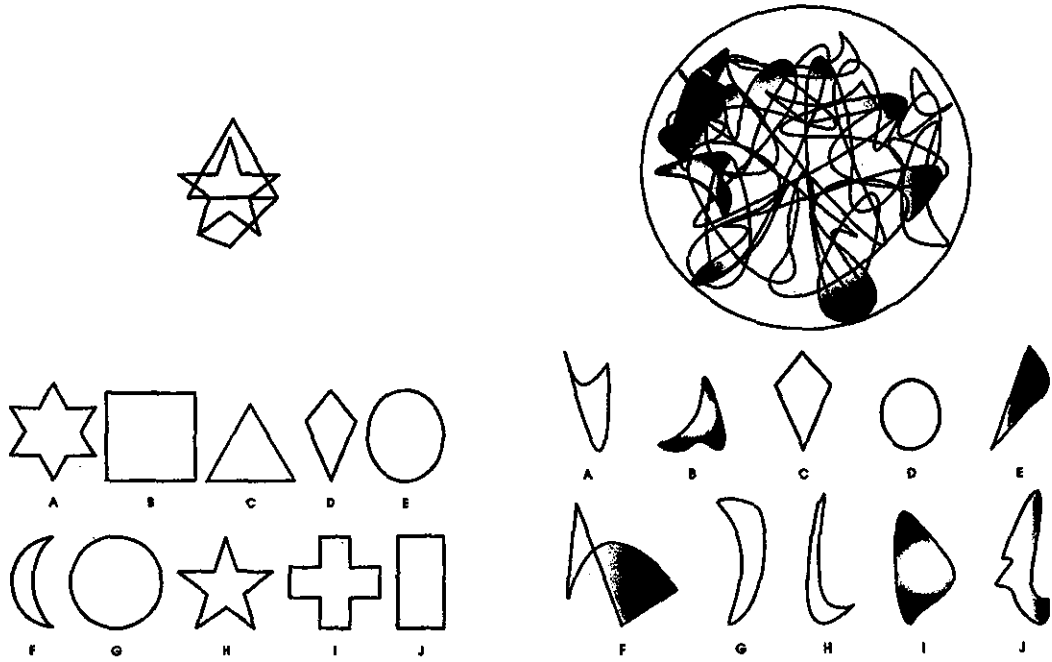


図2. 「視覚閉鎖」 (Visual Closure)

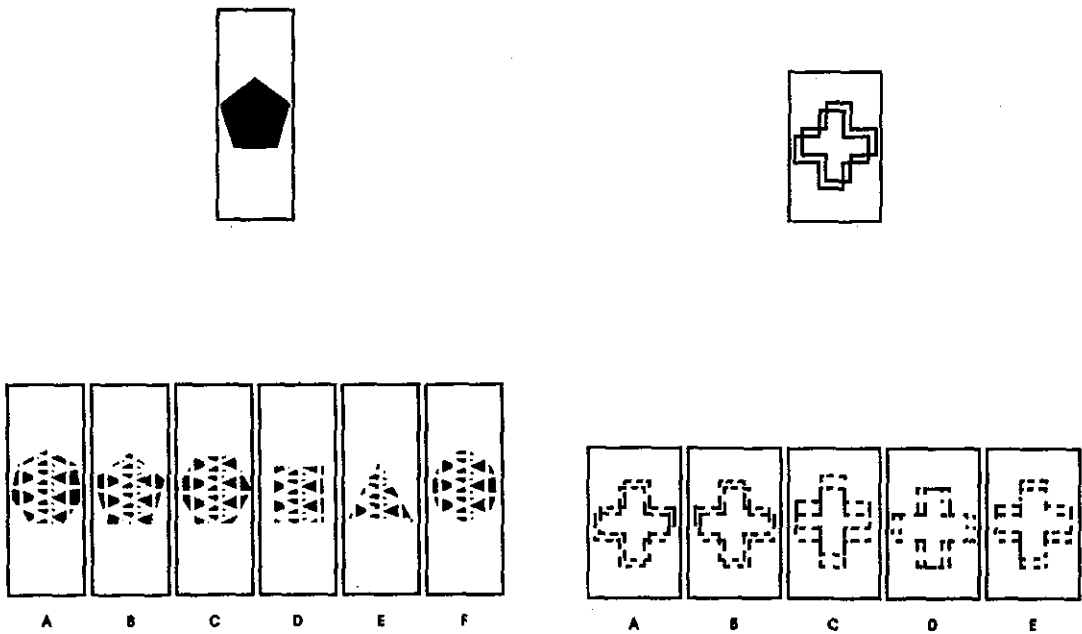


図 3. 「図形の恒常性」

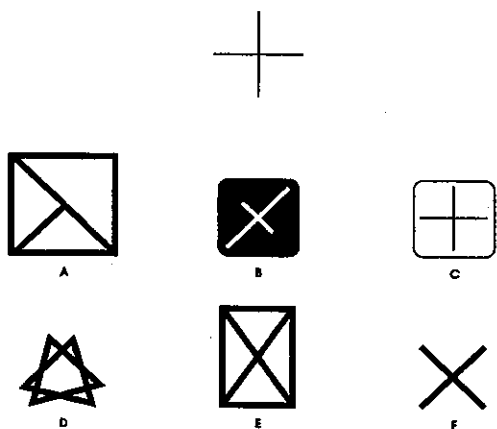


図 4. 「模写」

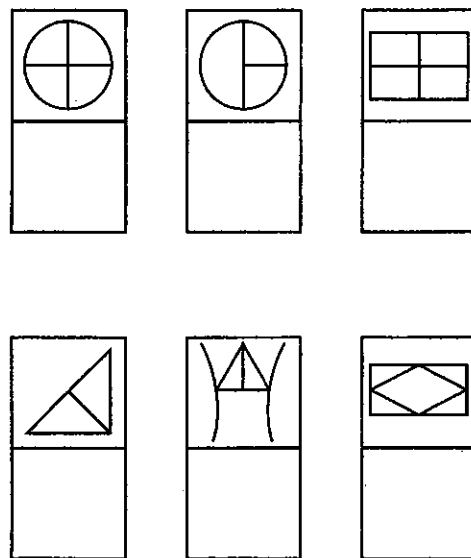


図 5. 「視覚—運動探索」

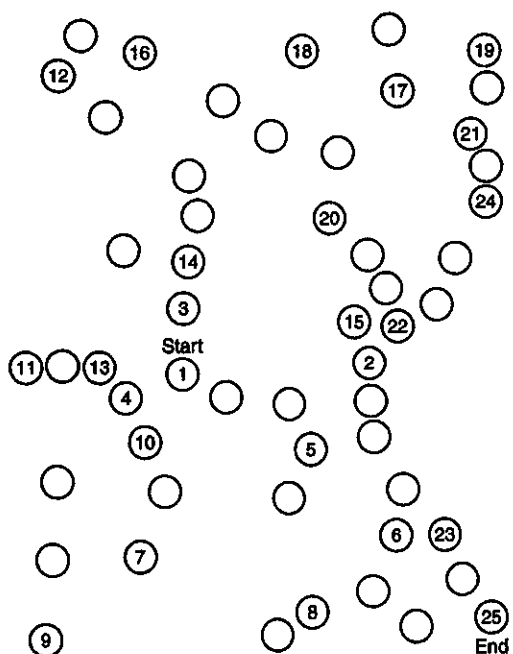


図 6. 「視覚—運動速度」

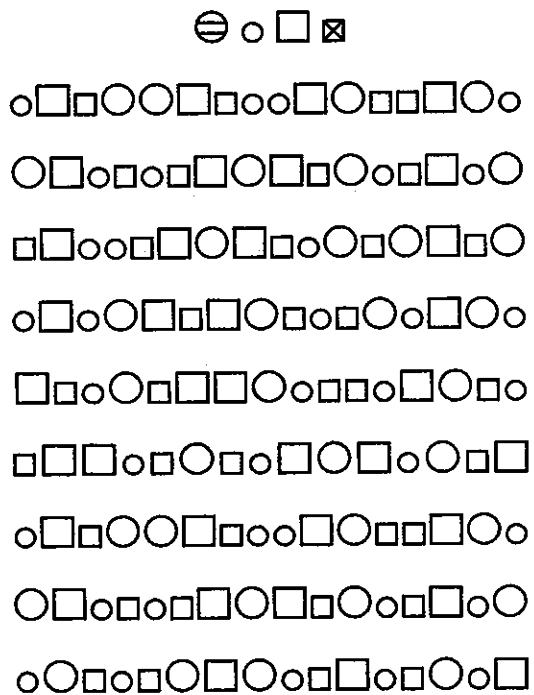


図 7. MRPI と VMII の指数の平均値の比較

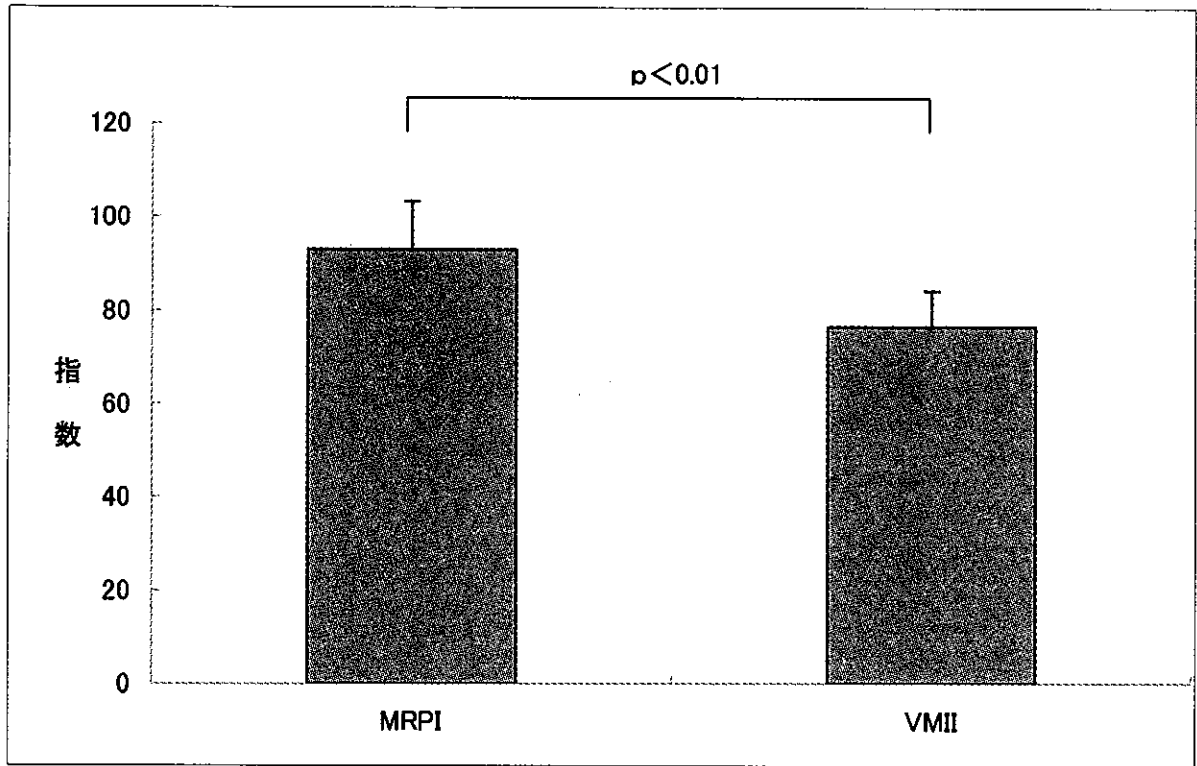
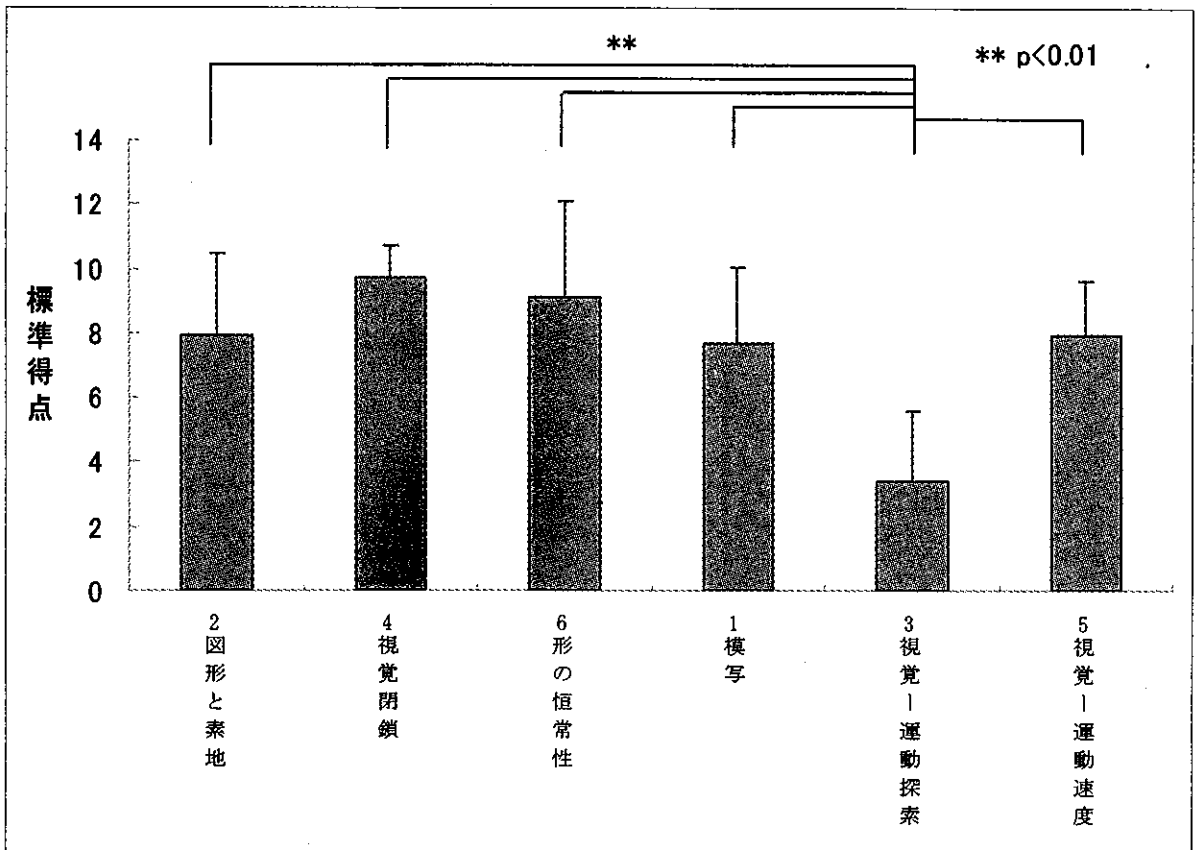


図 8. 下位検査標準得点の平均値の比較



分担研究報告書

V) 肢体不自由児施設の地域における機能 再検討

諸根 彬

宮城県立拓桃医療療育センター 所長

肢体不自由児施設の地域における機能の再検討

分担研究者	諸根 彬（宮城県拓桃医療療育センター）
研究協力者	石原 芳人（秋田県太平療育園）
	佐藤 英貴（山梨県立あけぼの医療福祉センター）
	徳山 剛（岐阜県立希望が丘学園）
	伊達 伸也（松江整肢学園）
	福永 拙（別府発達医療センター）
	佐伯 満（北九州市立総合療育センター）
	横田 信也（北九州市立総合療育センター）
	佐藤 一望（宮城県拓桃医療療育センター）
	落合 達宏（宮城県拓桃医療療育センター）
	松木 儀浩（宮城県拓桃医療療育センター）

研究要旨

障害児の療育（小児リハビリテーション）の新たな展開の中で、地域における肢体不自由児施設の機能を再検討する。

研究初年度の平成 14 年度は、全国的調査・研究の準備段階として、下記の二つの研究課題について、地域・施設形態が異なるそれぞれの施設の立場で個別に研究を進めた。

- 1) 措置制度に関して、利用者のニーズ、施設経営上の問題、制度そのものの問題、施設が抱える問題等について。
- 2) 肢体不自由児施設に求められるファミリーサポート機能として、心身障害児（者）施設地域療育事業の「障害児（者）短期入所事業」の実態とそれが抱える問題について。

研究二年度（平成 15 年度）は、14 年度に行った研究をもとに調査票を作成し、全国の肢体不自由児施設の実態調査を実施した。61 箇所から回答があり、その結果を分析して、肢体不自由児施設の小児リハビリテーション機能（外来、入院）、在宅支援、家族支援の現状及び問題点を検討した。

今年度は、これまでの研究の経緯を踏まえて、支援費制度移行後の、全国肢体不自由児施設における「短期入所事業」の実態を調査した。

A) 研究目的

昭和 56 年に、緊急保護事業としてスタートした短期入所事業は、障害児の居宅生活支援サービスとして重要なメニューの一つとなっており、平成 15 年 4 月から支援費制度による事業となった。短期入所事業に関して研究初年度に北九州

市立総合療育センター、岐阜県立希望が丘学園、秋田県太平療育園の 3 施設において、短期入所事業の施設側と利用者側の問題について調査を行った。研究二年度に行った全国の肢体不自由児施設の調査で回答を得た 61 施設の内、短期入所事業は 59 施設で実施されていた。その多くは、

空床利用型で専用床を設けている施設は18.0%であった。利用者の急増している実態は全国的なものであり、短期入所が在宅支援・家族支援の重要なメニューのひとつであることから、設備・人員の整備が急務であることが明らかとなった。

肢体不自由児施設が、地域における機能として、今後、短期入所にどのように関わっていくべきかを検討するにあたり、全国肢体不自由児施設における「短期入所事業」の実態をより詳細に調査することは有意義である。

B) 研究方法

平成14年度、15年度に行った研究をもとに表1の項目でアンケート調査表を作成し、全国の肢体不自由児施設63箇所を調査を依頼した。

C) 研究結果

62施設から回答があった。

そのうち、3施設は短期入所事業を行っていないかった。残りの59施設のうち、1施設は利用制限のため現在利用者はなしとの回答であった。また、3施設からの回答は不十分な部分が多かったため、アンケートのA:施設・事業実態の1)から16)については59施設の、A:施設・事業実態の17)から24)とB:利用者実態については主に55施設について集計した。

1. 施設・事業実態

◇ 事業の概況

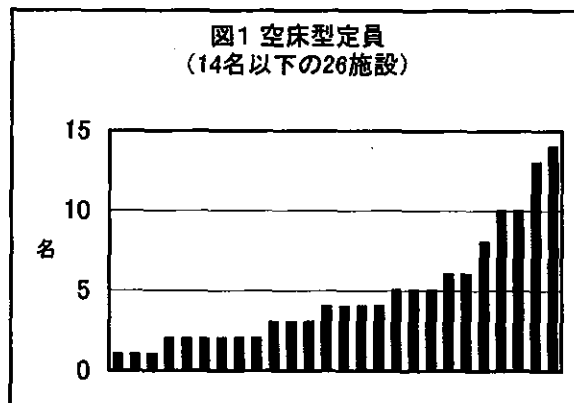
1) 短期入所実施施設種別

肢体不自由児施設単独が40施設、併設施設共用が19施設あり、共用併設施設の内訳は重症心身障害児施設が14施設、重症心身障害児施設+医療病棟、重症心身障害児施設+知的障害児(者)施設+肢体不自由児療護施設、知的障害児(者)施設、身体障害者更生施設が各1施設、不明1施設であり、共用併設施設としては重症心身障害児施設が多かった。

2) 事業所の種別と定員

空床型45施設、空床型+併設型3施設、併設

型11施設であった。空床型のうち8施設は定員の記載なく、11施設は定めておらず、残り26施設の定員は1~14名であった(図1)。



空床型+併設型3施設では2施設で空床型の定員は定めず併設型が5名、1施設で空床型1名、併設型2名であった。併設型では2施設は定員の記載なく、1施設で定めず、1施設で20名、7施設で3~6名であった。

なお、宿泊、日帰りを分けて定員を定めている施設もあった。

3) 事業指定種別

児童+身体障害者+知的障害者が12施設、児童+身体障害者が2施設、児童+知的障害者が18施設、児童のみが26施設、無回答1施設であった。

4) 事業の実施区域と人口

大部分が施設のある都道府県全域であった。

5) 短期入所専用の独立棟の有無

独立棟のある施設はなかった。

6) 短期入所専任の職員配置

専任の職員を配置しているのは3施設で職種はそれぞれ、保育士、准看護師、看護師+ケースワーカーであった。

7) 日帰りのみ(日帰りショート)の利用

54施設で受け入れ、5施設では受け入れていなかった。

8) 利用日の入所時間

16施設では原則として平日の日中時間帯に限定していたが、40施設では限定していなかった(夜間、祝祭日、休日でも可)。3施設は無回答であった。

表1 アンケート項目

1. 施設・事業実態

◇ 事業の概況

- 1) 短期入所実施施設種別 2) 事業所の種別と定員 3) 事業指定種別
- 4) 事業の実施区域と人口 5) 短期入所専用の独立棟の有無 6) 短期入所専任の職員配置
- 7) 日帰りのみの利用（日帰りショート）の受け入れ 8) 利用日の入所時間
- 9) 送迎の実施 10) 利用期間中のリハ訓練 11) 定期的な他医療機関受診時の対応
- 12) 余暇活動支援 13) 短期入所中の教育支援

◇ 児童短期入所について

- 14) 障害児の障害による短期入所サービス提供の制限の有無

14) の設問に有と回答した場合のみ 15) ～16) に回答

- 15) 自閉症児あるいは重度・多動の知的障害児
- 16) 施設の医療レベルを超える重篤な障害や疾患児

◇平成15年度（15/4/1～16/3/31）の利用状況

- 17) 延べ利用件数 延べ利用件数合計 その指定種別内訳

・指定種別③児童の《障害区分別》延べ利用件数

・「日帰りショート」の延べ利用件数とその内訳 4時間未満 4～8時間 8時間以上

- 18) 実利用者数 実利用者数合計 その指定種別内訳

・指定種別③児童の《障害区分別》実利用者

- 19) 年間最多利用件数

- 20) 延べ利用日数 全利用者の延べ利用日数 ・うち、「日帰りショート」の延べ利用日数

・指定種別③児童の延べ利用日数 ・指定種別③児童の《障害区分別》延べ利用日数

- 21) 1日最大利用者数

- 22) 23) 24) 超重症児・準超重症児の延べ利用件数 実利用者数 延べ利用日数

2. 利用者実態

- 1) 個人年間利用日数 2) 個人1日あたりの利用者負担額(特定費用を含まない)

- 3) 特定費用の徴収 4) 特定費用徴収の内容 5) 利用者の年齢

3. 短期入所事業についての意見

- 1) 短期入所事業の制度上の問題点
- 2) 運営していく上で最も苦慮している点
- 3) 利用者ニーズと受け入れ体制のギャップ
- 4) その他（提言を含めて）

9) 送迎の実施

送迎を実施していたのは5施設で、そのうち1施設は宿泊利用者のみに限定していた。

10) 利用期間中のリハ訓練

行っていないのが27施設、短期入所サービスの中で提供しているのが2施設、一部実施しているのが30施設で、実施形態は「外来」が22施設、「外来」＋「通園事業として」が2施設、「通園事業として」が2施設、その他が3施設、1施設は無回答であった。

11) 定期的な他医療機関受診時の対応

緊急の対応以外は全ての施設で「対応はしない」との回答であった。

12) 余暇活動支援

「行事参加や外出支援等を行っていない」が13施設、「基本的には入所患者と一緒に」が46施設であった。

13) 短期入所中の教育支援

19施設は行っており、39施設は行っていなかった。1施設は無回答であった。支援内容の大部分は、近接・隣接養護学校や併設養護学校の在籍児童の通学支援であった。

◇ 児童短期入所について

14) 障害児の障害による短期入所サービス提供の制限

「18歳未満の障害児であれば、障害内容は問わない」が7施設で、「適切なサービス提供が困難として、一部の障害児の受け入れは制限している」が52施設であった。

制限していると回答した施設の、15)「自閉症児あるいは重度・多動の知的障害児の受け入れ」については3施設では受け入れていたが、49施設では受け入れを制限していた。

16)「施設の医療レベルを超える重篤な障害や疾患児」に対しては6施設が受け入れており、45施設は制限、1施設は無回答であった。

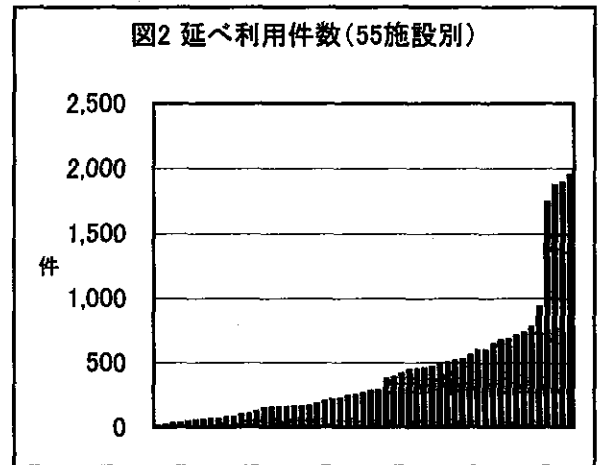
制限していると回答した中には、併設の重症心身障害児施設で対応する、あるいは医療入院とするといったところもあったが、小児科的管理ができないとの理由で、人工呼吸器管理が必

要な児の制限をしている施設が多かった。

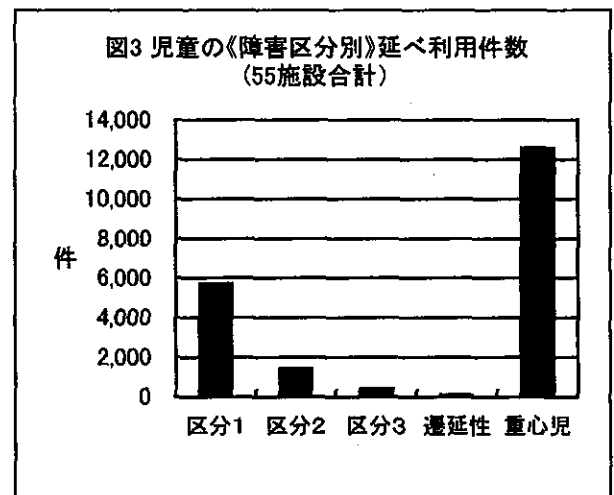
◇平成15年度の利用状況

17) 延べ利用件数 (55施設)

延べ利用件数合計23,316件(図2)で指定種別内訳は身体障害者172件、知的障害者2,910件、児童20,234件であった。



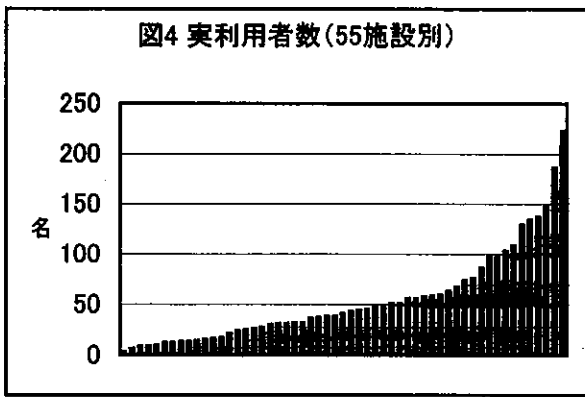
児童の《障害区分別》延べ利用件数は、区分1(5,716件)、区分2(1,448件)、区分3(409件)、遷延性(102件)、重症心身障害児(12,559件)であった(図3)。



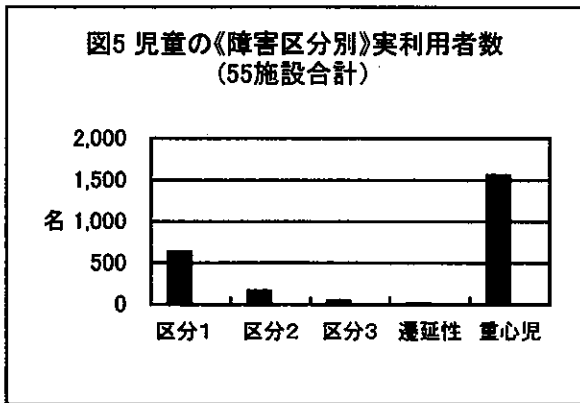
「日帰りショート」の延べ利用件数合計は16,211件でその内訳は4時間未満7,174件、4～8時間6,867件、8時間以上2,170件であった。

18) 実利用者数 (55施設)

実利用者合計2,962名(図4)で指定種別内訳は身体障害者54名、知的障害者493名、児童2,415名であった。

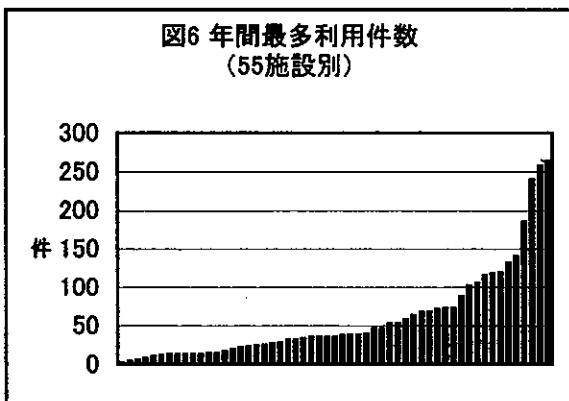


児童の《障害区分別》実利用者数は、区分1 (633名)、区分2 (163名)、区分3 (47名)、遷延性 (12名)、重症心身障害児 (1,560名)であった(図5)。



19) 年間最多利用件数 (55施設)

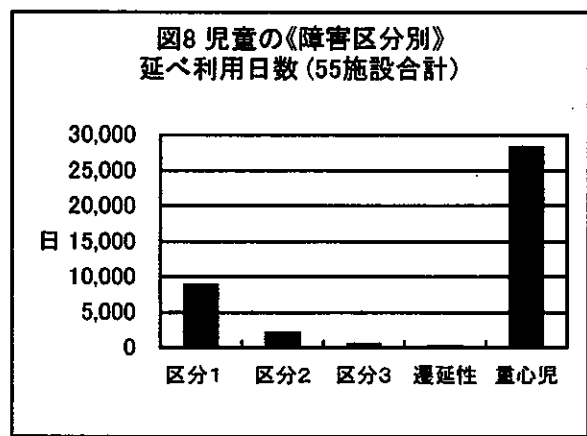
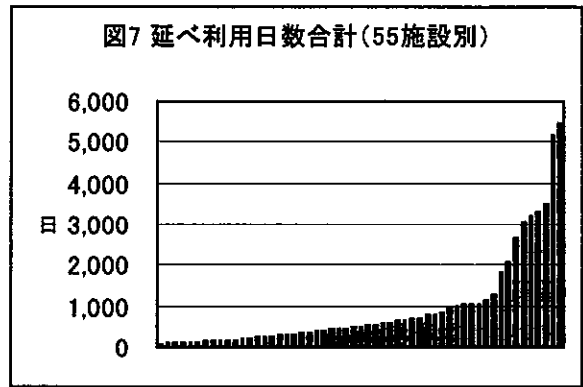
同一の障害児(者)が1年間に利用した最多件数では100件以上の施設が11施設有り、最高264件であった(図6)。



20) 延べ利用日数 (55施設)

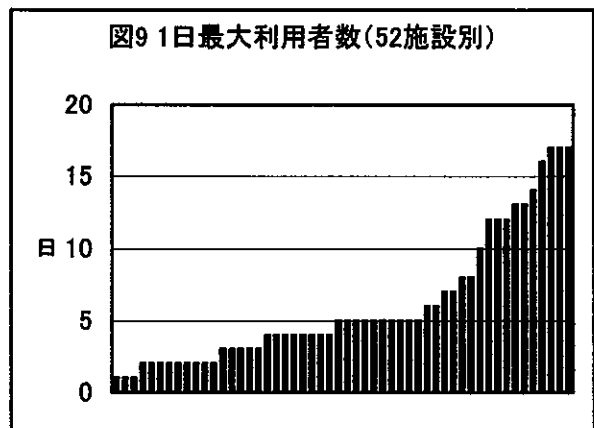
全利用者の延べ利用日数合計52,113日(図7)で、児童の延べ利用日数39,847日、児童の《障害区分別》実利用者は、区分1 (8,763日)、区

分2 (2,125日)、区分3 (497日)、遷延性 (242日)、重症心身障害児 (28,220日)であった(図8)。



21) 1日最大利用者数 (52施設)

施設別の1日最大利用者数を図9に示す。



22) 超重症児・準超重症児の延べ利用件数 (33施設)

合計は3,666件(超重症児563件、準超重症児3,103件)であった(図10は超重症児・準超重症児の延べ利用件数が1,396件の1施設を除いた32施設の施設別、超重症児・準超重症児の

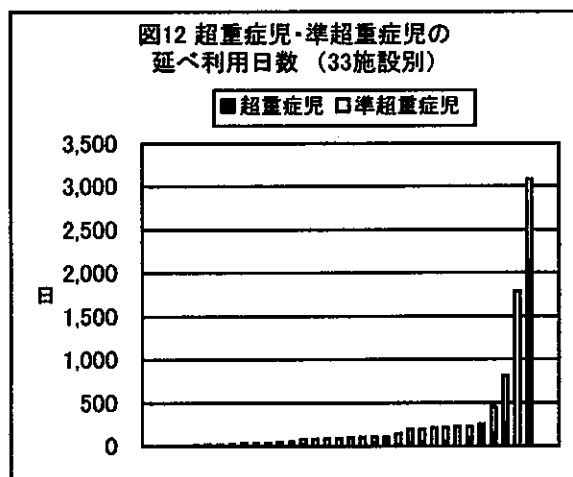
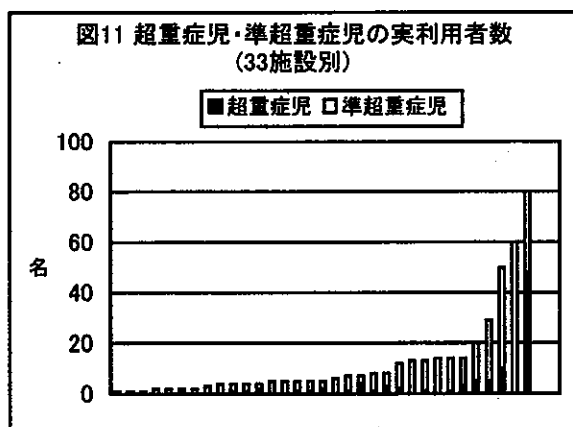
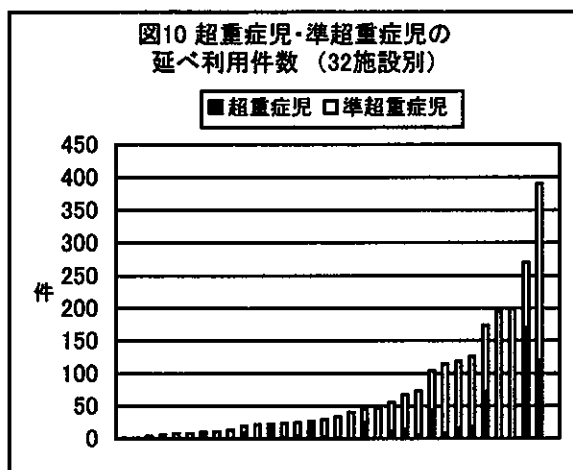
延べ利用件数)。

23) 超重症児・準超重症児の実利用者数 (33施設)

合計は 410 名 (超重症児 93 名、準超重症児 317 名) であった (図 11)。

24) 超重症児・準超重症児の延べ利用日数 (33施設)

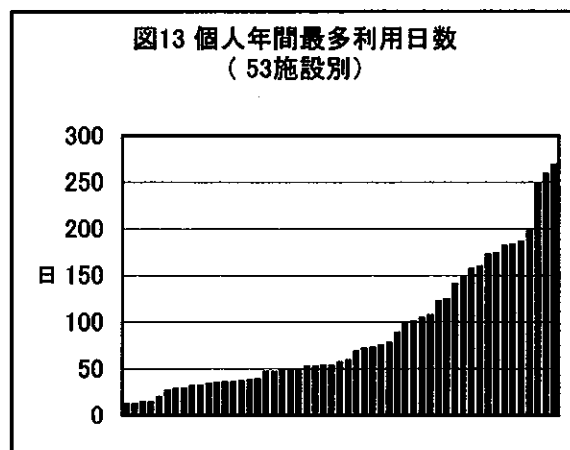
合計は 8,822 日 (超重症児 3,257 日、準超重症児 5,565 日) であった (図 12)。



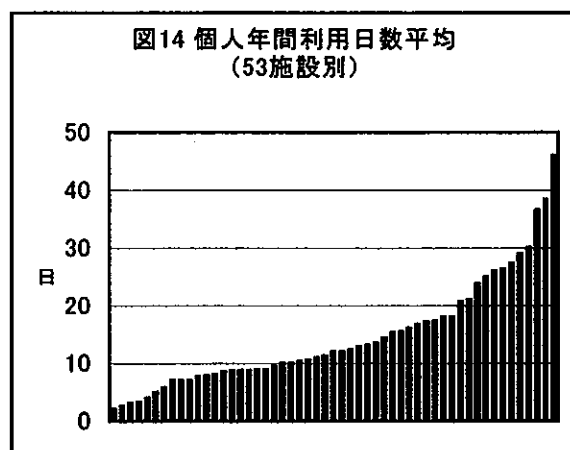
2. 利用者実態

1) 個人年間利用日数 (53施設)

各施設での個人の年間最多利用日数は 100 日以上の施設が 18 施設有り、最高 268 日であった (図 13)。

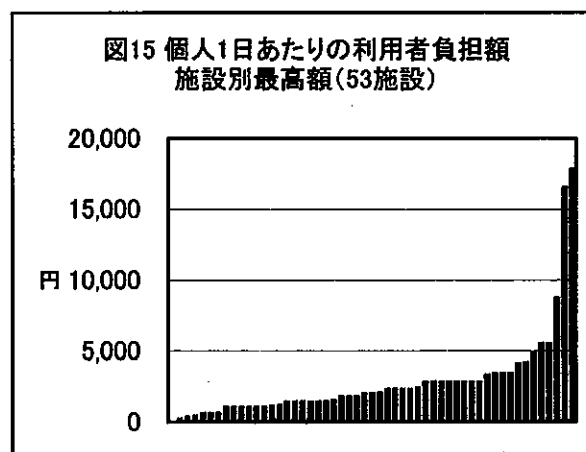


各施設の平均は図 14 に示す。

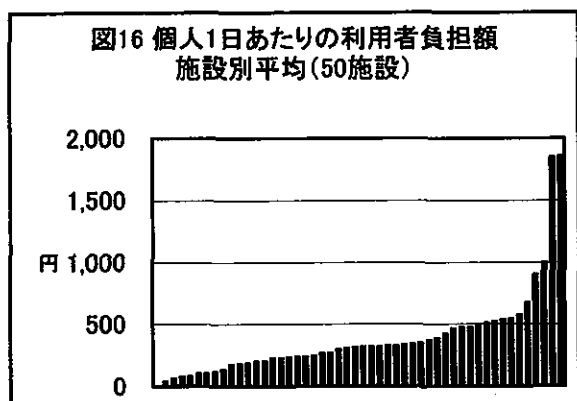


2) 個人1日あたりの利用者負担額 (53施設)

特定費用を含まない、個人1日あたり利用者負担額の施設別最高額の最高は 17,800 円であった (図 15)。



個人1日あたりの利用者負担額の施設別平均を図16に示す。



3) 特定費用の徴収 (57 施設)

特定費用とは、日常生活においても必要な費用（例えば食材料費）で、利用者に負担させることが適当と認められる費用のことであるが、全く徴収していない施設が3施設あった。

4) 特定費用徴収の内容

食材料費は1日3食620円から1,620円と施設によりかなり差があった。日用品費として徴収しているものとしてはオムツの実費が多かった。

その他、日帰り送迎代、洗濯代、教養娯楽費実費を徴収している施設があった。

5) 利用者の年齢

数値が不正確な回答が多いことから、集計できなかった。

3. 短期入所事業についての意見

以下は寄せられた意見の一部である。

1) 短期入所事業の制度上の問題点

- ・ 市町村の障害区分の認定基準に差がある。
- ・ 事業コストに比べ、支援費基本単価が低い。
- ・ 支援費の基本単価が低く、病院である肢体不自由児施設で区分「1、2、3」では採算に合わないし、区分「重症心身障害児」でも現単価では採算に合わない。
- ・ 高度の医療ケアが必要な利用者は、支援費で入所すると施設側の持ち出しが多くなる。
- ・ 利用者がサービスや施設を選択する支援費制度だが、短期入所事業に関しては、利用者が選択できるほどの施設はない。

- ・ 児童短期入所事業では、《知的》《身体》の区分が無いと、一部障害児の受け入れに一定の制限をせざるを得ない。
- ・ 支援費に変わり、利用される側、又受ける側の事務手続きが大変煩雑になった。
- ・ 制度の内容が、利用者に理解されにくい。
- ・ 超重症児等に必要不可欠な医療ケアに対する制度上の規定・配慮がない。
- ・ 短期入所児の医療費の扱いを明確にして欲しい。
- ・ 支援費制度になり、今まで当施設を利用したことの無い方の希望が増え、アナムネ(情報交換)の時間が非常に増えた。1名に対して約1時間は掛かるので、入所児童に対する指導が出来なくなる。

2) 運営していく上で最も苦慮している点

- ・ 入所児童の安全性確保（感染対策等）に苦慮する。
 - ・ 受け入れ体制（設備、職員）が不十分であり、職員の業務過重と措置入所児童のサービス低下につながる。
 - ・ 利用者の増加への対応（定数上、利用を断る場合が多い、また緊急時の受け入れに苦慮）。
 - ・ 緊急時、親との連絡がなかなか取れない。
 - ・ 「濃厚な医療ケア」、「自閉症や動く重症児」の対応に苦慮。
 - ・ 利用者が直接施設を選んで契約する制度とはなっているが、利用者は何処に相談して契約すればよいかの相談支援がほとんどの地域の行政窓口でされていない。
- #### 3) 利用者ニーズと受け入れ体制のギャップ
- ・ 保護者の希望するサービス内容と施設が提供するサービス内容間のギャップ（保育、教育、訓練、入浴、洗濯など）。
 - ・ サービス利用の簡便性を望む利用者側と施設側の児童の安全性確保のための手続きにギャップあり。
 - ・ 利用者からみると、比較的気軽に利用できる制度であるが受け入れ側はそうは考えな

い。

- ・ 保護者が「気軽な」気持ちで利用を希望されるのはありがたいことである反面、障害者、特に発達過程途上にある障害児は一人一人の医療・介護・発達支援等のニーズが大きく異なるため、受け入れ側は「慎重」な姿勢にならざるを得ない。しかし、このことが保護者に「拒否的」と映ることが多いため、申込から利用終了時までの接遇に特別な配慮を心がけている。
- ・ 土、日の利用が多く、職員の勤務体制に影響。
- ・ 毎日利用者が変わることや、体調の把握など対応が難しい場合が多い。
- ・ 早朝、朝、夕の食事時の入・退所の対応が職員的人数的にむずかしい。利用者に理由を説明して、理解してもらっている。
- ・ 障害が重複する方や医療ケアの必要な方には選べるほど施設が無い状態であり、その不満を当センターにぶつけられる方も少なくないのが現状で、施設の担当者としてはその対応にも苦慮することもたびたびであり、この制度自体いわゆる施設にすべてをぶつけている感が否めない。
- ・ 身体状況が安定した状態での利用が基本となっているが、利用者サイドからすると、病院である事から、治療まで望まれることがある。
- ・ 契約しているのだからと、利用を強要されることも多くなっている。
- ・ 必要以上の支給量が決定されていると思われるケースがあり、かつ、支給量全てを使おうとするので、支給量の少ない人が利用しにくい。
- ・ 医療が必要と思われるときも短期入所の利用を希望される。
- ・ 受け入れ中の入浴、洗濯について、施設側の事情を説明し、了解してもらっているものの入浴サービスに関する要望が強い。
(現状では宿泊の場合のみ入浴している)

4) その他 (提言を含めて)

- ・ 質の高い短期入所事業のためには、人的・構造的な整備とそれに見合う報酬体系が必要。
- ・ 虐待を疑わざるを得ないケースがある。
- ・ 障害認定に関して第三者機関での判定が必要。
- ・ 県立や公立病院に対して、短期入所事業のベッド設置を義務化する(特に、医療ケアを必要とする超重症児(者)に限定して)。
- ・ 定員以外にも緊急利用枠の許可を。
- ・ 県や市町村がショートステイのニーズをつかみ、サービス事業者とともに体制整備をはかることが必要。
- ・ 地域住民に一番身近な行政窓口の市町村が単に受給者証発行所と支払い所の機能しか果たしていないと見えるのですが。
- ・ 児童短期入所事業の指定を受けていても、施設によっての特性、体制がある中で、超重症児の受け入れを行っている横で多動児を受け入れることは危険である。施設の実体を、もっと行政サイドで利用者やその保護者に説明し利用者は納得した上で利用することが望ましい。
- ・ 就労している家庭の場合、日中受け入れの対応をしている。本来のショートステイの目的から逸脱していると感じることもある。しかし他の社会資源が乏しい現実の中で受け入れざるを得ない。就労家庭に対するメニューを早急に立ち上げてもらいたい。
- ・ 身体障害者の場合は、宿泊ショートステイではなく日帰りのショートステイを認めてもらいたい。
- ・ 入所利用者よりも手厚い処遇(または特別な処遇)を求められることが多く、契約段階から一貫して処遇は同等と説明するが、あまり納得していない様子が見える。

D) 考察

肢体不自由児施設における短期入所事業の実

態を調査するために、全国の63肢体不自由児施設に対してアンケート調査を行った。

短期入所実施施設種別(59施設)では、肢体不自由児施設単独が40施設、併設施設共用が19施設で、共用併設施設としては重症心身障害児施設が多かった。事業所の種別(59施設)では空床型45施設、空床型+併設型3施設、併設型11施設で、施設の76%が空床型であった。また、短期入所専用の独立棟を持った施設は無かった。

定員に関しては未記入が多かったが、年間の1日最大利用者数(51施設)では、34施設が5名以下、7施設が6~10名と、およそ施設の80%が10名以下であった。残り10施設では12~17名であった。

事業指定種では半数以上の施設で身体障害者、知的障害者も受け入れていたが、児童が年間の実利用者数の81.5%(延べ利用件数:86.8%、延べ利用日数:76.5%)占めていた。

短期入所専任の職員を配置しているのは3施設のみで職種はそれぞれ、保育士、准看護師、看護師+ケースワーカーであった。

大部分(59施設中54施設)の施設が日帰りのみの利用(日帰りショート)を受け入れていたが、「日帰りショート」の延べ利用件数は全体の実に69.5%(延べ利用日数:31.1%)占めていた。

児童について《障害区分別》で「区分1+重症心身障害児」の割合を見ると、実利用者では90.8%(延べ利用件数:90.3%、延べ利用日数:92.8%)であった。このことは、介護を多く要する利用者の割合が圧倒的に多いことを示している。

超重症児・準超重症児に関する調査では併設している重症心身障害児で対応しているところも多く、また未集計のところもあり、33施設の集計となった。超重症児・準超重症児の実利用者数の合計は410名(超重症児93名、準超重症児317名)であり、「施設の医療レベルを超える重篤な障害や疾患児」については45施設で制限、

していた。人工呼吸器の管理を要する利用者を受け入れるには施設側の医療機器の整備、小児科医師の確保などの問題があり、現状では受け入れ可能な施設はかなり限られていた。

初年度の研究で短期入所事業の施設側と利用者側の問題について調査をした中で、利用者サイドより、「送迎、保育、教育、訓練等のサービス内容を拡充してほしい」との意見があった。このことを受けて、今回、送迎の実施、利用期間中のリハ訓練、定期的な他医療機関受診時の対応、余暇活動支援、短期入所中の教育支援についての調査を行った。中には積極的に対応しているところもあったが、総じて利用者サイドが満足するにはまだまだ不十分であった。

個人1日あたりの利用者負担額、特定費用の徴収、特定費用徴収の内容に関しては施設による違いが大きく、その理由について更に調べる必要があると思われた。

短期入所事業について、多くの意見が寄せられ、その一部を結果の項に記載したが、内容的に多かったものとしては、○事務手続きの煩雑さ、○障害区分判定に関すること、○支給量に関すること、○単価設定に関すること、○入所中の医療費の扱いに関すること、○児童では、《知的》《身体》の区分が無いことによる問題、○利用者の増加により、緊急対応が出来ないこと、○利用者の増加により利用者の把握が十分出来ないこと、○施設整備に関すること、○職員配置に関すること、○高リスク利用者の受け入れに関すること、○在宅と同程度の関わりをもとめられること、○措置入所児と同程度のサービスをもとめられること、○入・退所の時間に関すること、○市町村の対応に関することがあげられる。

障害区分判定、支給量については市町村によって大きな差異が生じているとの指摘が多く、単価設定に関しては、低すぎるとの意見が多くみられた。

支援費制度による事業になったことに伴い、児童では、《知的》《身体》の区分が無くなり、

新たな利用希望者が増えたこと等から、入・退所の対応や利用者の把握に時間がとられるといった意見があった。

利用希望が特定の日に集中したり、定期的利用者が多かったり、緊急利用者の対応が難しいとの意見も多くみられた。

空床利用の施設が多く、その場合基本的には職員の配置が変わらないことから、重度の子供が多い利用者の対応は大きな負担となっている。

一方、利用者は在宅でのかわりにより近いものを求めるが、受ける側は同じようには困難であるといった内容の意見も多かった。

また、利用者に感染症が疑われる際、あるいは病棟で感染症が発生した際、同じ病棟のため対応が難しいといった意見もいくつかみられた。

E) 結論

支援費制度による事業となった平成 15 年 4 月から 1 年間の全国肢体不自由児施設における短期入所事業の実態を調査した。

支援費制度になって、利用者が急増してきた施設が多く、短期入所事業は、肢体不自由児施設に求められるファミリーサポート機能の障害児居宅支援サービスとして重要なメニューであるといえる。

研究初年度の当分担研究の報告でも述べたが、短期入所事業は単なる保護ではなく、利用者の個別生活プログラムの提供が施設サービスとして求められており、もはや片手間の運営には限界があり、施設として専用の設備とマンパワーの確保が不可欠であることが、あらためて確認された。

Ⅱ.障害者スポーツ

Welcome to Esperanza's website!! エスペランサは、脳性麻痺・肢体不自由者中心のサッカークラブです。We are a foot

携帯Mobile English

チーム紹介 活動予定 メンバ-募集 News BBS CPサッカー お問い合わせ



チーム紹介 主に横浜・川崎で活動するCPサッカークラブです。

活動予定 練習は、週2回/火曜夜・日曜午後に行なっています。

メンバー募集 関東近辺の初心者からCPサッカー-日本代表を目指すアスリートまで、随時募集!

NEWS 大会出場、イベント参加、代表チームの活動等クラブメンバーの活動を紹介します。

BBS クラブメンバーからの連絡事項など交流掲示板。



CPサッカーは、脳原性麻痺・肢体不自由者7人で競技されるパラリンピック種目のサッカーです。国内大会だけでなく、国際大会への出場機会があり、愛好者からトップアスリートまで、世界中で競技されている障害者スポーツです。**パラリンピック**へは、予選大会を勝ち抜いた8ヶ国が出場。日本は未出場です。アジア・オセアニア地域の大会・**FESPIC**へは、02釜山大会で日本も出場しています。その他、ワールドカップ、世界選手権等、毎年、国際大会がおこなわれています。日本国内では、全国大会があり、日韓親善試合も毎年おこなわれています。

What's New

05. 1. 23
2005 ローソンカップフットサル大会(カテゴリー-CP/肢体)に出場しました>>>[Click Here](#)

05. 1. 9
2005年初蹴り!!>>>[Click Here](#)

今月の活動予定

9日	13:00~15:00	横浜ラポール	ジュニアサッカー
9日	15:00~17:00	横浜ラポール	チーム練習
11日	19時頃スタート	川崎リハセン体育館	平日夜練習・フリー参加
16日	10:00~12:00	横浜ラポール	チーム練習
18日	19時頃スタート	川崎リハセン体育館	平日夜練習・フリー参加
22日	10:00~12:00	横浜国際競技場	サッカー教室
23日	12:00~16:00	川崎球場	ローソン(肢体/CP)フットサル
25日	19時頃スタート	川崎リハセン体育館	平日夜練習・フリー参加
30日	13:30~15:30	法政大学川崎G	チーム練習

Last Update January 23, 2005

©2004 - 2005 Esperanza. All rights reserved.

脳性まひ7人制サッカー

Esperanza

Kawasaki / Yokohama / Tokyo / Chiba / Kanagawa, JAPAN

■ HOME

■ チーム紹介

■ 活動予定

■ メンバー募集

■ NEWS

■ BBS

■ CPサッカー

■ ジュニア

■ 火曜の夜会

■ お問い合わせ

せ

since 2002
World Cup Year

メンバー募集

エスペランサでは、随時メンバーを募集しています。ご興味を持たれた方は、ぜひ一度、練習を見学にいらしてください。お問い合わせはこちら→ (*メールでお返事が遅い場合は、掲示板にてお問い合わせください。)

現在のメンバーは、CP・肢体不自由者13名、健常者7名、年齢は10代～50代、サッカーをはじめたばかりの超初心者からB級コーチ、指導員、国際試合経験者、中・高・大学生、会社員、医療従事者等々がいます。初心者も大歓迎ですので、気軽に参加してください。

ゴールキーパー大募集！初心者歓迎！

現在、エスペランサには、CP・肢体不自由者のゴールキーパーがいないため、GK経験者、GKをやりたいCP・肢体不自由者を大募集しています。初心者OK。一緒に、練習をして、国内のみならず、世界の舞台を目指しませんか？！我こそはと思う方、少しでも興味がありましたら、お気軽にご連絡ください。

CPサッカー

エスペランサが行なっている「CPサッカー」は障害者スポーツのオリンピック＝パラリンピック競技大会の種目となっています。サッカー先進国であるヨーロッパ、南米の競技レベルの高さは言うまでもありません。ワールドカップ、世界選手権、フェスピック(アジア大会)など国際大会も開かれ、国内でも大会が開催されています。エスペランサでは、このCPサッカーの競技者となる下記のような方を大募集しています。

病気や交通事故などで、脳がダメージを受けたことにより、筋肉のコントロール、バランスや協調が難しい人、脳性麻痺、頭部外傷、脳外傷、脳炎、脳梗塞や脳卒中などで後遺症を持つ人

* 国際大会への出場は、クラス分け委員によりC5からC8クラスと認定されたプレーヤーに限られます。

フットサル

サッカーをしたいけれどする機会がなかった肢体不自由者のみなさん！自分に合ったサッカーチームが見つからなかった肢体不自由者のみなさん！エスペランサと一緒にサッカーを楽しみませんか？フットサルをとおして、障害の有無、年齢、性別、経験に関係なく、とにかくサッカーを楽しみましょう！

老若男女(？)、経験レベル、障害を持つメンバーがいるエスペランサの活動にご賛同くださるサッカーを愛する方であれば、どなたでも大歓迎です！

7
 脳性まひ7人制サッカー
Esperanza

Kawasaki / Yokohama / Tokyo / Chiba / kanagawa , JAPAN

- HOME
- チーム紹介
- 活動予定
- メンバー募集
- NEWS
- BBS
- CPサッカー
- ジュニア
- 火曜の夜会
- お問い合わせ

Since 2002
 World Cup Year

活動スケジュール

練習参加希望、見学希望の方はお気軽にご連絡ください！*雨天などで練習が中止の際は、掲示板でお知らせしますので、確認してください。E-mail esperanzahp@yahoo.co.jp

練習場所

- 横浜ラポール
- 法政大学川崎総合グラウンド
- 等々力第1サッカー場

2005年1月

日程	時間	場所	集合	内容
9 日	13:00~15:00	横浜ラポール	12:50現地	障害児ジュニアサッカークラブ
9 日	15:00~17:00	横浜ラポール	14:50現地	チーム練習
11 火	19時頃スタート	川崎リハセン体育館	現地	平日夜練習・フリー参加
16 日	10:00~12:00	横浜ラポール	9:50現地	チーム練習
18 火	19時頃スタート	川崎リハセン体育館	現地	平日夜練習・フリー参加
22 土	10:00~12:00	横浜国際競技場	9:10 ラポールロビ-	9:30横浜国際一般利用者受付。 サッカー教室(参加費2000円)
23 日	12:00~16:00	川崎球場	12:00現地	ローソンカップフットサル大会(ハンディキャ プ/CP)
25 火	19時頃スタート	川崎リハセン体育館	現地	平日夜練習・フリー参加
30 日	13:30~15:30	法政大学川崎G	現地	チーム練習

2005年2月

日程	時間	場所	集合	内容
2 火	19時頃スタート	川崎リハセン体育館	現地	平日夜練習・フリー参加
6 日	10:00~12:00	横浜ラポール	9:50現地	チーム練習
6 日	13:00~15:00	横浜ラポール	12:50現地	障害児ジュニアサッカークラブ
8 火	19時頃スタート	川崎リハセン体育館	現地	平日夜練習・フリー参加
13 日	15:00~17:00	横浜ラポール	現地	チーム練習
15 火	19時頃スタート	川崎リハセン体育館	9:50現地	平日夜練習・フリー参加
20 日	10:00~12:00	横浜ラポール	現地	チーム練習
22 火	19時頃スタート	川崎リハセン体育館	現地	平日夜練習・フリー参加
27 日	14:00~16:00	法政大学川崎G(予定)	現地	チーム練習

過去の活動へ

脳性まひ7人制サッカー

Esperanza

Kawasaki / Yokohama / Tokyo / Chiba / Kanagawa, JAPAN

■ HOME

■ チーム紹介

■ 活動予定

■ メンバ募集

■ NEWS

■ BBS

■ CPサッカー

■ ジュニア

■ 火曜の夜会

■ お問い合わせ

Since 2002
World Cup Year

脳性まひ者7人制サッカー (CPサッカー) とは

脳(原)性麻痺障害者のサッカーは7人制でプレーされ、CPサッカーと呼ばれています。FIFAのルールをいくつか修正し、肢体不自由者にもプレーしやすく、エキサイティングなゲームができるようになっています。脳(原)性麻痺障害者の競技者は、麻痺の度合い等により8つのクラスに分けられ、サッカーの競技者は、C5からC8クラスによってプレーされます。

CPサッカーはパラリンピックの正式種目。1978年から国際的なスポーツとなり、現在では、20ヶ国以上で障害者スポーツ種目として競技されています。主にヨーロッパを中心としていますが、アジア太平洋地区においては、韓国、オーストラリア、台湾、香港そして日本と、ここ数年間で普及しています。日本においては、2000年より、韓国との親善試合を行なうようになり、少しずつ競技者が増えはじめています。2002年には、初の公式国際試合となった「第8回フェスピック競技大会(韓国・釜山)」へエントリーしています。

「CP」って何？

CPサッカーのCPとは、英語の「Cerebral(脳からの) Palsy(麻痺)」の略で、日本では、脳性麻痺・脳原性麻痺と呼ばれています。出生時のアクシデント、病気、交通事故など(=脳性麻痺、頭部外傷、脳外傷、脳梗塞や脳卒中など)で、脳がダメージを受けたことにより、筋肉のコントロール、バランスや協調が難しい身体に障害を持つ人のことを言います。競技大会においては、大会前に、クラス分けが行われ、麻痺の部位、程度により、C5からC8のクラスと認定された競技者がCPサッカー大会に出場することができます。障害者スポーツ大会では、フェアに競技を行うために、このクラス分けがとても重要となっています。団体スポーツのサッカーにおいては、加えて、試合中必ずC5又はC6のプレーヤーが出場していること、C8のプレーヤーは同時に3名までしか出場できないという規定があります。CPサッカーは、障害者スポーツの数少ない団体競技であり、立位のCP競技者の代表的なスポーツ種目です。

CPサッカーの競技ルール

(CP-ISRA Classification & Sports Rules Manual 8th Edition(2001-2004) 7-A-SIDE-SOCCERより) 以下の修正を除いては、FIFA2000年のルールが適用されます。

- フィールドの大きさは、最大75m×55m、最小70m×50mとする。
- ゴールポストは、5m×2mとする。
- 競技者の数は、チーム7人以内で、うち1人はゴールキーパー。試合は、それぞれのチームが最低4人以上で行なうこととする。競技者は、C5、C6、C7およびC8クラスの選手に限る。それぞれのチームは、試合中、必ず1人以上のC5またはC6の選手を出場させるか、C7およびC8の選手6名で試合を行なうこととする。C8クラスの選手が、試合中、同時にプレーするのは3名までとする。
- 杖の使用は認めない。
- オフサイドルールは適用しない。
- ボールがインプレーになるまで相手競技者は、ボールから7m以上はなれる。
- スローイン:スローアーは、ボールを投げ入れるとき、片手で下から投げることができる。その際、ボールは、スローアーの手から離れてすぐに、グラウンドにつかなければならない。
- 公式試合においては、前後半各30分。ハーフタイムは15分とする。選手の交代は3人まで認める。

パラリンピック

パラリンピックへは、予選大会となる、ワールドカップ、世界選手権、地域大会(ヨーロッパ選手権、コパアメリカ選手権)へ出場し、そこで上位の成績を収めた8ヶ国が出場できます。アジア地域では、2002年、アジア地域初の公式大会・フェスピック競技会が開催されましたが、パラリンピック予選大会の承認は受けていません。

シドニーパラリンピック…シドニーパラリンピックへは、アトランタパラリンピック優勝国(オランダ)、世界選手権の優勝、準優勝国、ヨーロッパ選手権の優勝国、コパアメリカ選手権の優勝国およびランキングの1位と2位、ホストカントリーの8ヶ国が出場。出場国:1位(金メダル)ロシア 2位(銀メダル)ウクライナ 3位(銅メダル)ブラジル 4位ポルトガル 5位アルゼンチン 6位スペイン 7位オーストラリア 8位オランダ

アテネパラリンピック…アテネパラリンピックへは、シドニーパラリンピックの優勝国(ロシア)、ワールドカップの優勝、準優勝国(ロシア、ウクライナ)、ヨーロッパ選手権の優勝国(ウクライナ)、コパアメリカ選手権の優勝国(ブラジル)そして残りのエントリー国は、世界選手権の上位国が出場することとなり、ウクライナ、ブラジル、ロシア、アルゼンチン、イラン、オランダ、アイルランド、アメリカが出場しました。>>>詳しくはこちら



Fan Fun SLEDGE!!

THE LATEST INFORMATION ABOUT JAPANESE ICE SLEDGE HOCKEY

Since 1998 Winter to 2002 Spring

Fan Fun SLEDGE!!更新休止のご案内

長野パラリンピックの開会式と同時にスタートしたこのホームページですが、諸般の事情により活動を休止し、今後大規模なコンテンツの更新を行わないことといたしました。ソルトレークシティパラリンピックも終了した今日、新たな日本スレッジホッケー界のインフォメーションサイトも登場し、従来FFS!!が果たしてきた役割以上の情報発信が可能となりました事から、ひとつの区切りとさせていただきます。永年の皆様のご支援・ご愛顧に心より感謝申し上げます。またどこかで、お会いしましょう。。。 2002年6月2日 Fan Fun SLEDGE!!

今後の情報確認及び掲示板等はsledge-hockey.jpをご利用ください。



FFS!!開設から4年、ついにあの男がリンクに。。。FFS!!ラストコンテンツです。
ヘルメット越しから・・・FFS!! the last message(2002.6.2掲載)

ソルトレークシティ冬季パラリンピック、日本代表は5位獲得。
1/Bメンバーも活躍することができました。皆様のご声援ありあとうございました。

FFS!! Reports from SLC!

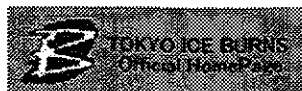
現地での体験、生観戦のレポート。そして日本でのサポーターの熱狂も文字に！
待望の？お買い物編スタート
(2002.3.22更新)

Dedicated to my best friends!

The member of JAPAN Sledge hockey National team

ソルトレークシティパラリンピック スレッジホッケー日本代表選手
の紹介と、FFS!!からひとりひとりへの応援メッセージです。
(2002.3.3掲載)

ソルトレークシティパラリンピック日本代表最終合宿
開催！最高の舞台へ向けた彼らを応援してください！
(2002.2.10第1報掲載)



東京アイスバーンス公式ホームページ
リニューアルオープン！こちらもよろしくお願いたします。



FFS!!はSledge Hockey Aid JAPANの活動に共感し、協力しております。
皆様のご協力をお願いいたします。



「Japanese Sledge Hockey Database 2001-2002」
2001-2002ジャパンパラリンピックスコア暫定版公開しました！！
2001年日韓スレッジホッケー親善試合スコア公開しました。
(2001. 12. 23)

みんなで行こうSLC!
ソルトレークシティパラ観戦ツアー紹介ページ
Load to SALT LAKE CITY(SLC) March, 2002
開設しました。SLCパラ観戦のご参考にどうぞ！(2002.1.19)

アイススレッジホッケーとは(2001. 8. 16更新)

Latest News

2001-2002
ジャパンパラリンピックスレッジホッケー競技大会
開催情報のお知らせ(2001.12.12掲載)

アイススレッジホッケー日韓交流試合in八戸
大会開催情報のお知らせ(2001.9.24掲載)

アイススレッジホッケー東京大会2001
皆様ご声援ありがとうございました！
Game-1/2オフィシャルスコア掲載しました(2001.9.10更新)

ソルトレークシティパラリンピックスレッジホッケー
日本代表選手選考東京合宿の開催について(5/15掲載)



特定非営利活動法人(NPO)



(視覚障害者と共に野山を楽しむ会)

ページ開設日 2000年 4月20日

ページ更新日 2005年 1月11日

ようこそ！HCかざぐるまホームページへ！！

これまでの訪問者数

総計: 18089

昨日: 11

今日: 11

これからもよろしく。

☆☆☆☆ ニュース フラッシュ ☆☆☆☆

- ◎メーリングリスト開設。申し込みは、管理者へ。
- ◎1月例会 室生寺らくらくソフト … お知らせ
- ◎「新春の集い」へのご案内 … お知らせ
- ◎2月例会「三峰山(ハードコース)」… お知らせ
- ◎(超ソフト)イチゴ狩り案内 … お知らせ
- ◎「気軽な気持ちで」… コラム
- ◎第1回 紙上登山学校 … コラム

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

トップメニュー

クラブ紹介

ハイキングクラブ「かざぐるま」を紹介します。

お知らせ

例会や行事予定のお知らせです。

例会・行事報告

例会や行事の報告、感想です。

他会の活動紹介

交流のあるハイキングクラブの活動紹介です。

山行報告

例会・個人・グループ山行の山行報告です。

第7回視覚障害者全国交流登山西日本集会

10月に鳥取県船上山で行われた集会の内容、案内・報告です。

写真館

風景・高山植物・スナップなど、自信作・自慢作。

山菜料理メモ

山菜の見分け方、採取法、料理法

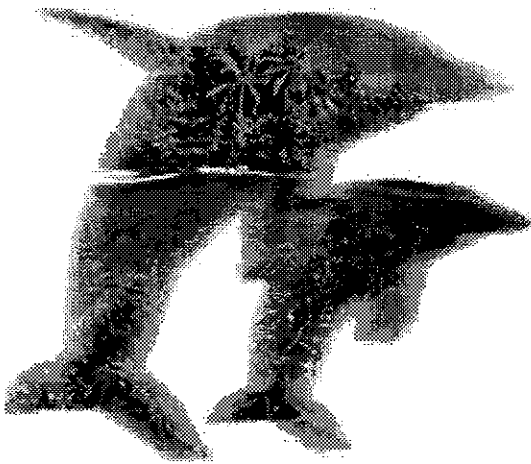
コラム

障害者問題・環境問題・エッセイなど

山仲間・遊び仲間

リンク集です。

ご意見、ご感想、リンク希望などございましたら、下記までメールをお願いします。
メールはこちら



JULIA

HEAD OFFICE
5-7-24Nipponbashi Naniwa Osaka Japan
tel:06-6644-6043 fax:06-6644-6044

▼JULIA/HSA JAPAN MENU▼

▼JULIAからの最新情報

2003/05/08
JULIA HEAD OFFICE
事務所移転のお知らせ

2003/03/31
4月3日よりNHK教育TV「毎木曜放送」
JULIA代表 安納昭則によるダイビングレッス
ン
「水中散歩を楽しもう」全9回

2003/03/31
HSAインストラクタートレーニングコース及び
HSAダイブナビゲーションコースを6月に開催する予定
です。
詳細を決定次第と案内致しますので希望者は
お問い合わせ下さい。

2002/10/18
JULIA
IPC/ITCの日程が決まりました。
IPC 2002年11月9～11日(3日間)
ITC 2002年12月9～10日(11日間)
開催場所 和歌山県西牟婁郡串本町有田

2002/07/08
2001年 映画「ザ・タイパー」試写会
チャリティー募金 集計結果報告
⇒ 関連リンク

過去の履歴は[こちら](#)へどうぞ



Diving. It's Like Nothing On Earth.

JULIAは世界最大のダイビングショー-DEMAの
国内唯一の正式メンバーです。



JULIAはHSAの日本支部です。

年間200本潜れます。



JULIAも協力しています。



バリアフリー旅行が出来ます。

JULIA/HSA JAPAN 本部・事務局 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5丁目7-24
tel:06-6644-6043 fax:06-6644-6044 E-MAIL: info@julia.ne.jp

Copyright 2000 Japan Underwater Technology Distributors Association

| HOME | what's JULIA | JULIAの教育プログラム | JULIA カードサンプル | what's HSA | HSA Materials(資料集) |
| 身体障害者の皆様へ | JULIA DIVING COLLEGE | JULIAおすすめSHOP |
| お問い合わせ用フォーム |

What's JULIA?

○キーワードはやさしさ

JULIAは'90年8月に設立されたダイビング指導団体です。
 私たちは、「障害者ダイバーの育成」と「環境を守る」という2つの大きな目標を持って活動をしています。
 安全で快適なダイビング指導に加え、非常に社会性の高いこの2つのプログラムがJULIAの大きな特徴です。

私たちのキーワードは「やさしさ」。
 この「やさしさ」の哲学がJULIAのダイビング指導と活動のバックボーンとなっています。
 私たちは年令を重ねるごとに皆障害者になっていきます。
 「やさしさ」を追求する上で、JULIAのプログラムは安全基準と技術を障害者をカバーするまで高めることにより、スキューバダイビングの年齢層を広め、ダイビングビジネスの上でも一歩先を見えています。

-あなたをやさしく海の中に御案内します。-

NEW ORLEANS

DEMA SHOW 2001

DIVING · ADVENTURE TRAVEL · OCEAN SPORTS
 JULIAは世界最大のダイビングトレードショー-DEMAの国内唯一のチャーターメンバーです。

障害者ダイビングにも積極的なJULIAです。

HANDICAPPED SCUBA ASSOCIATION®

障害者のための国際的な潜水指導団体HSA。
 JULIAはHSAの日本支部もかねています。

JULIA/HSA JAPAN 本部・事務局 〒556-0005 大阪府浪速区日本橋5丁目7-24
 tel:05-6644-6043 fax:06-6644-6044 E-MAIL:info@julia.ne.jp

Copyright © 2000 Japan Underwater Leaders & Instructors Association

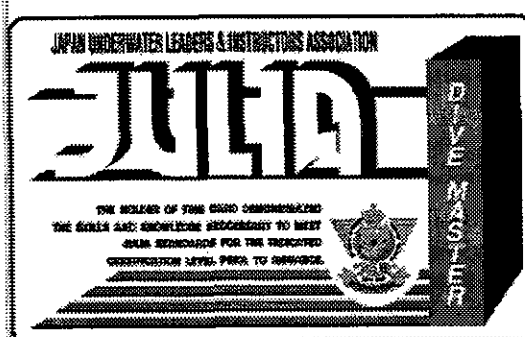
| HOME | what's JULIA | JULIAの教育プログラム | JULIA カードサンプル | what's HSA | HSA Materials(資料集) |
 | 身体障害者の皆様へ | JULIA DIVING COLLEGE | JULIAおすすめSHOP |
 | お問い合わせ用フォーム |

JAPAN UNDERWATER LEADERS & INSTRUCTORS ASSOCIATION

JULIA Program

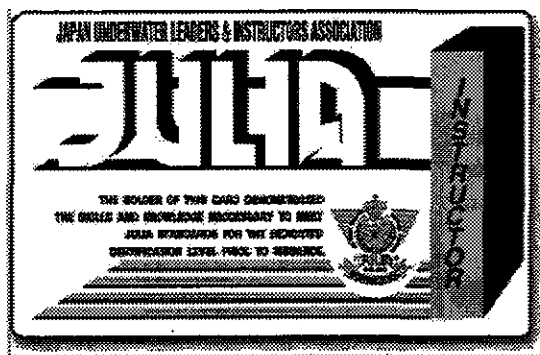
エントリーレベルからプロフェッショナルまで、JULIAでは様々なトレーニングプログラムを用意しています。また、米国HSA(Handicapped Scuba Association)の日本の窓口として、障害者の皆様のためのカリキュラムも用意しています。

ここでは主なコースを紹介します。
ここで紹介しているコース以外のカードサンプルはこちらにあります。

 <p>JULIA OPEN WATER certification card sample showing the logo and text: 'THE HOLDER OF THIS CARD DEMONSTRATES THE SKILLS AND KNOWLEDGE NECESSARY TO MEET JULIA STANDARDS FOR THE HIGHEST CERTIFICATION LEVEL PRIOR TO ENROLLMENT.'</p>	<p>OPEN WATER - これであなかもダイバーです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■このコースに合格すると このコースに合格した受講生は、インストラクターの直接管理下でない海洋でダイビングを楽しむことができます。 ■受講条件 15歳以上であること。 インシュリンを使用している者、強度な喘息をもつ者、てんかんを経験した者は受講することができません。
<p>ADVANCED OPEN WATER 高いレベルの技術と、知識を身につけたいという方へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■このコースに合格すると ナイトダイビングやディープダイビング等の中級レベル以上の技術が必要なダイビングを楽しめます。また、レスキューやファーストエイドの知識や技術も身につきます。 ■受講条件 30本以上の潜水経験 	 <p>JULIA ADVANCED OPEN WATER certification card sample showing the logo and text: 'THE HOLDER OF THIS CARD DEMONSTRATES THE SKILLS AND KNOWLEDGE NECESSARY TO MEET JULIA STANDARDS FOR THE HIGHEST CERTIFICATION LEVEL PRIOR TO ENROLLMENT.'</p>
 <p>JULIA DIVE MASTER certification card sample showing the logo and text: 'THE HOLDER OF THIS CARD DEMONSTRATES THE SKILLS AND KNOWLEDGE NECESSARY TO MEET JULIA STANDARDS FOR THE HIGHEST CERTIFICATION LEVEL PRIOR TO ENROLLMENT.'</p>	<p>DIVE MASTER - プロダイバーの仲間入りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■このコースに合格すると ガイドダイバーとして、ガイドダイビングを行うことができます。 ■受講条件 18歳以上であること ADVANCED OPEN WATERに合格してから最低6ヶ月以上の潜水経験及び、30回以上の潜水が記録され、17時間以上の潜水時間に達していること。 <p>このカードは1年毎に更新が必要です。</p>
<p>INSTRUCTOR</p> <ul style="list-style-type: none"> ■このコースに合格すると ダイブマスターまでのJULIA認定コースを独立して行うことができます。 	

■受講条件

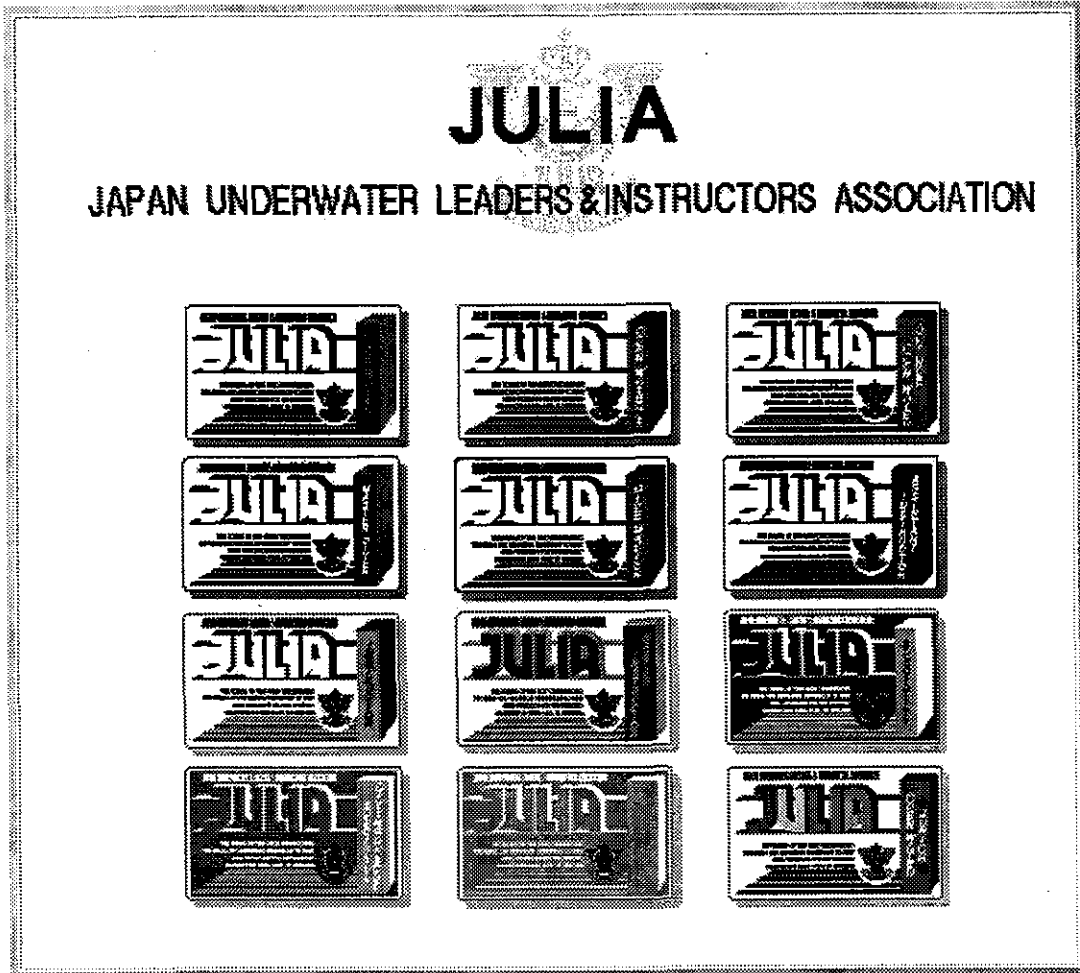
1. すでにアシスタントインストラクターとして認定され、3回以上のスクーバ認定コースを行ったことがある。
2. インストラクタープレパラトリーコース(IPC)に参加し、合格する。
3. 現役のJULIAインストラクター2名、またはマスターインストラクターの推薦をうける。



JULIA/HSA JAPAN 本部・事務局 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5丁目7-24
 TEL:06-6644-6043 FAX:06-6644-6044 E-MAIL: info@julia.ne.jp
 Copyright ©2000 Japan Underwater Leaders & Instructors Association

| HOME | [what's JULIA](#) | [JULIAの教育プログラム](#) | [JULIA カードサンプル](#) | [what's HSA](#) | [HSA Materials\(資料集\)](#) |
[身体障害者の皆様へ](#) | [JULIA DIVING COLLEGE](#) | [JULIAおすすめSHOP](#) |
[お問合せ用フォーム](#) |

C-Card Samples



JULIA/HSA JAPAN 本部・事務局 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5丁目7-24
 tel:06-6644-6043 fax:06-6644-6044 E-MAIL:info@julia.ne.jp

Copyright 2000 Japan Underwater Leaders & Instructors Association

| HOME | what's JULIA | JULIAの教育プログラム | JULIAカードサンプル | what's HSA | HSA Materials(資料集) |
 | 身体障害者の皆様へ | JULIA DIVING COLLEGE | JULIAおすすめSHOP |
 | お問い合わせ用フォーム |

What's HSA

■HSAは世界中に約1500名のインストラクターがいる国際的な指導団体です。

HSAの歴史

1973年

米国カリフォルニア大学にて、現代表のジム・ガタクレーが身障者に向けて「スクーバダイビングを通しての自己開発プログラム」を開始。このワークショップは1977年まで続けられた。

1981年

HSA(Handicapped Scuba Association)が設立され、NAUI・PADIなど国際的な活動をしている潜水指導団体の協力を得て、身障者へのスクーバダイビングの実技認定基準が作成された

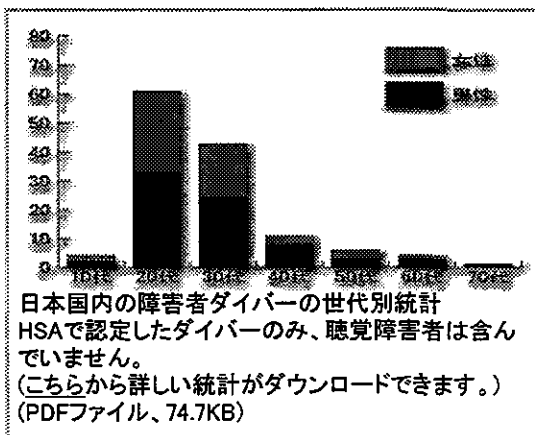
1991年

1990年に設立された指導団体JULIAがHSAの日本支部となる。

1999年

インストラクターを教育するコースディレクターとして、案納昭典、梶俊也、中塚茂巳、マイケル・フェーバーが、また医学的なアドバイスを行うアカデミックディレクターとして中川法一(理学療法士)がHSAより認定される。

	日本	世界
健全者ダイバー	30-70万人	300-500万人
身障者ダイバー	130名(HSA)	1万人(HSA)
インストラクター	47名(HSA)	1500名(HSA)



■HSAのプログラム

OPEN WATER

マルチレベル認定を採用することで安全性を高めています。

OPEN WATER DIVE BUDDY

障害者ダイバーを水中でサポートします。

INSTRUCTOR

障害者の方へダイビングの指導を行えます。

HSAについて詳しい資料が[こちら](#)にあります。

JULIA/HSA JAPAN 本部・事務局 〒556-6005 大阪市浪速区日本橋5丁目7-24
tel:06-6644-6043 fax:06-6644-6044 E-MAIL info@julia.ne.jp

Copyright 2003 Japan Underwater Leaders & Instructors Association

| HOME | what's JULIA | JULIAの教育プログラム | JULIA カードサンプル | what's HSA | HSA Materials(資料集) |
| 身体障害者の皆様へ | JULIA DIVING COLLEGE | JULIAおすすめSHOP |
| お問い合わせフォーム |

HSA Materials

必ずお読みください。

●ご使用のパソコンでこのページのPDFを開けない方はこちらの方法をお試しください。=>[こちら](#)

●このコーナーでは、HSA JAPANの障害者ダイビングに関する様々な情報がPDFファイルで配布されています。
(Adobe Acrobat Reader 4.0が必要です。)



●ここで配布されている全ての資料の著作権は、JULIA/HSA JAPANが保有しています。
許可なく資料の一部または全部の無断複製、再配布、改変することを固くお断りいたします。

●ここで得た資料によるいかなる損害にも、当協会は、責任を負いかねますのでご了承ください。

○車椅子での使用に関するリゾート/ホテル評価

この資料はダイビング活動に利用されるリゾート・ホテル等について、車椅子での使用に関する利便性をチェックするためのものです。

ご提出の際は、氏名、電話番号、お勤め先、ご住所をご記入の上、本部まで郵送願います。

年間200本潜れます。



HANDICAPPED SCUBA ASSOCIATION

障害者ダイビングについて知りたい方へ

○障害者ダイビング統計

HSA JAPANでCカードを発行した身体障害者に関する統計資料です。

○HSA実技認定基準その歴史と開発

米国HSA本部における、身体障害者向けのスキューバダイビング実技認定基準の開発の歴史がまとめられています。(マニュアルからの抜粋)

○マルチレベル認定その概要

HSAのスキューバダイバーの認定基準の大きな特徴のひとつ、マルチレベル認定の概要について書かれています。(マニュアルからの抜粋)

○認定基準

身体障害者の方をダイバーとして認定する際のコース基準について解説しています。
(マニュアルからの抜粋)

HSAへのクロスオーバーを考えている方へ

○インストラクタートレーニングコース概要

HSAのインストラクタートレーニングコースの内容について書かれています。
(マニュアルからの抜粋)

○ダイブパディトレーニングコース概要

障害者の方とパディを組むためのダイブパディトレーニングコースの概要について書かれています。
(マニュアルからの抜粋)

身体障害者の方へ

○身体障害に関する自己申告書

身体障害者の皆様が講習を受講するにあたって必要となる書類です。
これをもとに医学的な判断を理学療法士等の専門家に依頼します。

○主治医先生へのお願い、診断書用紙

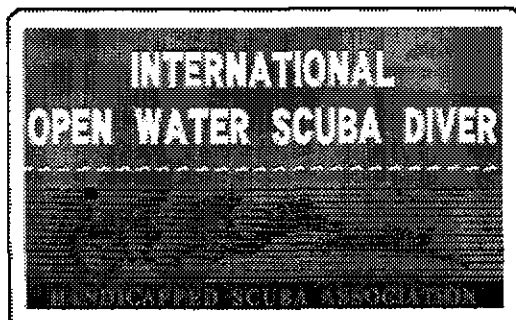
身体障害者の方が講習を受講するにあたってJULIAより主治医の先生に送付される書類です。
講習内容は各担当インストラクターが、講習生の子主治医の先生、JULIA所属の理学療法士等のメディカルスタッフにより、適切なアドバイスを受けます。

JULIA/HSA JAPAN 本部・事務局 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5丁目7-24
tel:06-6644-6043 fax:06-6644-6044 E-MAIL:info@julia.ne.jp
Copyright 2000 Japan Underwater Leaders & Instructors Association

| HOME | what's JULIA | JULIAの教育プログラム | JULIA カードサンプル | what's HSA | HSA Materials(資料集) |
| 身体障害者の皆様へ | JULIA DIVING COLLEGE | JULIAおすすめSHOP |
| お問合せ用フォーム |

身体障害者の皆様へ

HSA(Handicapped Scuba Association)は30カ国以上に支部や拠点を持つ、世界最大の障害者ダイビング指導団体です。
そして身体障害者の皆様に海外でも認められたCカードを発行できるのは、日本国内ではHSA日本支部をかねるJULIAだけです。



このカードを見せれば世界中のリゾートでダイビングを楽しむことができます。



■ダイビングを始める前に!!

障害者ダイビングを行っているダイビングショップはたくさんあります。でも...

○インストラクターは障害に関する知識を学んでいますか？

○海外でも認知されたCカードを発行していますか？

○もしものときの賠償責任保険は完備されていますか？

これらの条件を全てクリアできるのは国内では、JULIA/HSA JAPANに加盟しているショップだけです。

●どうやってはじめるの？

○不安な方はとりあえずご連絡を！（電話、FAX、E-mailなんでもOKです。）

○「身体障害に関する自己申告書」と、「主治医先生へのお願い・診断書」をダウンロードして必要事項をご記入の上、JULIA本部へ提出してください。

○JULIA/HSA JAPANでは医学的な判断は、必ず医師や理学療法士などの専門家がを行います。

JULIA/HSA JAPAN 本部・事務局 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5丁目7-24
tel:06-6644-6043 fax:06-6644-6044 E-MAIL:info@julia.ne.jp

Copyright ©2000 Japan Underwater Leaders & Instructors Association

| HOME | what's JULIA | JULIAの教育プログラム | JULIA カードサンプル | what's HSA | HSA Materials(資料集) |
| 身体障害者の皆様へ | JULIA DIVING COLLEGE | JULIAおすすめSHOP |
| お問合せ用フォーム |

DIVING College

■JULIAインストラクターカレッジ平成12年度生募集中！

ダイビングインストラクター専門学校
世界初の障害者対応インストラクター養成コース(2年制)

- 仕事をしながらインストラクターになれる
- 未経験者からの参加OK。
- 土・日は南紀串本にて合宿
- 年間200本以上潜れます。
- 学科講習あなたの好きな時間に。

本校の指導論

本校は高度なダイビングインストラクターとしての技術の取得と世界中のダイビングシーンでこれを実践できる実力を身につけることを目的としています。

JULIAでの基本理念は「やさしさ」です。

この「やさしさ」の哲学が本校のダイビング指導と活動のバックボーンとなっています。

世界のダイビングシーンには、まだ障害者や高齢者対応のダイビングインストラクターは少数です。多くの感動を伝え、共感できるライフスタイルがココにあります。



四肢麻痺の方とダイビングを楽しむ候補生



HANDICAPPED SCUBA ASSOCIATION
身体障害者の皆様にダイビングを指導できるインストラクターはまだ日本には不足しています。

JULIA/HSA JAPAN 本部・事務局 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5丁目7-24

tel:06-6644-6043 fax:06-6644-6044 E-MAIL: info@julia.ne.jp

Copyright 2000 Japan Underwater Leaders & Instructors Association

| HOME | what's JULIA | JULIAの教育プログラム | JULIA カードサンプル | what's HSA | HSA Materials(資料集) |
| 身体障害者の皆様へ | JULIA DIVING COLLEGE | JULIAおすすめSHOP |
| お問い合わせ用フォーム |

JULIAおすすめSHOP

—関東エリア—

SEA MAID

ILLOTES JAPAN CO.,LTD
シーメイドダイビングスクール
〒336-0021埼玉県さいたま市別所6-13-14
TEL:048-864-0900/FAX:048-844-0922
e-mail: seamaid@sol.dti.ne.jp
JULIA/HSAインストラクター:
太田 樹男, 井上 由香, 土屋 恵
JULIAダイブマスター/HSAダイブパティナー:羽田 桃子

ドルフィンテール 東京

〒146-0083東京都大田区千鳥1-15-11-405
TEL&FAX:03-5748-7499
e-mail: tem100ps@vinet.or.jp
JULIA/HSAインストラクター:梶 俊也

ドルフィンテール 湯河原

〒259-0314神奈川県足柄下郡
湯河原町宮上 742-77-A5
TEL&FAX:0465-60-2561
e-mail: tem100ps@vinet.or.jp
JULIA/HSAインストラクター:梶 俊也

ソルティープリーズ

〒251-0043神奈川県藤沢市辻堂元町4-2-24
TEL&FAX:0466-33-6161
e-mail: salty_breeze@livedoor.com
JULIA/HSAインストラクター:香坂 昌秀

ダイビングショップ ジムノ

〒420-0003静岡県静岡市片羽町80
TEL:054-253-8444, 携帯:090-8104-6232
e-mail:jelly.f@wonder.ocn.ne.jp
JULIA/HSAインストラクター:林 敏夫

ブルーコーナー

〒491-0047静岡県静岡市清閑町13-12 ツインコア1F
TEL:054-253-3656
e-mail: sdc@bluecorner.co.jp
JULIA/HSAインストラクター:望月 大治朗

Diving Club CreCer

〒272-0137千葉県市川市福栄3-23-1-1211
TEL:047-395-5450/FAX:047-395-3985
e-mail:w-yamaguchi@julia.jp
JULIA/HSAインストラクター:山口 和孝

—九州エリア—

ADVANCE

〒811-0112福岡県糟屋郡
新宮町下府840-125-1132
TEL:090-8760-4482,FAX:092-962-0909
JULIA/HSAインストラクター:橋本 善幸

—関西エリア—

マリコンtrolール・クック

〒556-0005大阪市浪速区日本橋5-7-24
TEL:06-6644-6042/FAX:06-6644-6044
e-mail:cook@julia.ne.jp
JULIA/HSAインストラクター:中塚 茂巳,向井 伸枝

ジップス・ダイビング・サービス

〒516-0067三重県伊勢市中島2-22-19
TEL:0596-25-3671/FAX:0596-25-2317
e-mail:gypts@mint.or.jp
JULIA/HSAインストラクター:幸田 高由,山田 直樹

ウォーターチャージ

〒554-0001大阪市此花区高見1-7-15-1304
TEL&FAX:06-6460-0785,
携帯:090-8798-5350
JULIA/HSAインストラクター:巴 昭二

シーフレンド有田

〒649-3518和歌山県西牟婁郡串本町有田189
TEL:0735-66-0535/FAX:0735-66-0539
e-mail:cook@julia.ne.jp
JULIA/HSAインストラクター:落合 樹,華山 尚子
JULIAインストラクター:佐藤 奈美

DIVE&BOAT ポーパス

〒649-3512和歌山県西牟婁郡串本町二色586-5
TEL:0735-62-4577/FAX:0735-62-4777
e-mail:porpoise@galaxy.ocn.ne.jp
JULIA/HSAインストラクター:濱田 昭男

—沖縄エリア—

ダイビング&フォトスタジオ ヴィアマール

〒904-0304沖縄県中頭郡読谷村楚辺1909-2
TEL:098-956-8108/FAX:098-956-8440
e-mail:annou@ryukyu.ne.jp
JULIA/HSAインストラクター